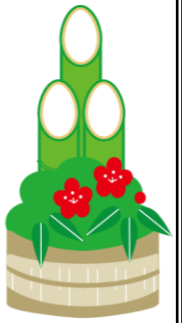


# 普及センター

# もりおか

# 1月



インターネットでオールカラーの記事が読めるよ！

いわてアグリベンチャーネット 普及センターもりおか

検索

第163号平成28年 1月1日発行  
盛岡農業改良普及センター  
盛岡市内丸11-1 盛岡地区合同庁舎  
TEL 019-629-6726 FAX 019-629-6739



## 新年のご挨拶



平成28年の年頭に当たり、皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様には、当普及センターの事業推進に対し、実証圃の設置など常日頃より多大なご支援とご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

去年は、記録的な暖冬で、4月以降も高温傾向となり、特に5月は観測史上1位でした。日照時間も多く、5月と7月には観測史上1位となりました。降水量は一時的に豪雨がありましたが、全体的に少雨でした。しかし、8月下旬から気象が一変して低温となったほか、10月上旬には爆弾低気圧と台風の接近により、りんごや野菜など一部に被害が発生いたしました。野菜や果実の品質も良く、高価格にも支えられ、水稻の作況も105の「やや良」となるなど、総じて作物の出来は良かったと思っております。

また、子牛価格の高騰や枝肉価格高も続き、活気のある年でありました。

これもひとえに、状況に応じて対応された農業者の皆様をはじめ、関係者の方々の努力の賜物と感謝申し上げます。

さて、昨今の農業を取り巻く情勢は、なんと言ってもアメリカ等とのTPP交渉の大筋合意、また、昨年からのスタートした農地中間管理事業、そして新たな経営所得安定対策、水田フル活用と米政策の見直し、日本型直接支払いなどで、農業は大きな転換期にあることを実感しています。

しかし、このような中であって、農産物の低コスト生産への取組、高付加価値化による所得向上、多様な販売チャネルの開拓など、創意と工夫を凝らして農業に励む方々もたくさんおります。また、郷土芸能など農村文化の継承、食の匠による郷土食の伝承、集落営農の推進など、農村地域の活性化に尽力され、数々の褒章を受けられるなど、皆様の前向きな取組に改めて心強く感じているところです。

当普及センターは、気象災害への対応をはじめ、多様な地域農業の課題に対応しながら、地域特性を生かした産地づくりなどに取り組む皆様を支援する役割を担っています。

このことから、「経営体質の強い担い手の確保育成」と「競争力に優れる産地形成」の2つを主な目標として掲げ、認定農業者や集落営農組織の経営高度化支援、新規就農者の確保・育成や女性組織への活動支援とともに、6次産業化や産地直売所の活性化支援、また、生育状況、異常気象対策、病虫害発生予察、研究機関で開発された新たな技術、先進事例など、各種情報の提供について、農業協同組合や市町、農業委員会等と連携を密にしながら、職員一同が普及活動を展開して参りますので、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様の益々のご健勝を祈念申し上げ、年頭に当たっての挨拶とさせていただきます。

盛岡農業改良普及センター所長 古川 勉

普及センター  
チーム紹介

# 経営体育成チーム

経営体育成チームでは、集落営農組織の経営高度化や認定農業者等の経営改善に関する支援を重点に活動を行っています。

- 集落営農組織に対しては、法人設立のための経営ビジョンの策定や、新規品目等の導入等による経営の多角化への支援を行っています。
- 認定農業者等に対しては、リーディング経営体育成候補者を対象とした単年度経営計画の実践支援のほか、農業農村指導士等の活動支援などを行っています。
- 経営改善計画の達成に向けた助言や、農作業安全の取組に対する支援を行っています。

比較的簡単に経営試算ができます（営農計画作成支援シート）。  
今年の経営計画を作成する際、興味のある方・組織は、普及センターに御相談ください！

## 【集落営農経営力向上講座・リーダー等育成塾の企画開催】

○集落営農の経営力向上や法人化支援として集落営農経営力向上講座（11月、3回）と集落営農リーダー等育成塾（7～8月、3回）を開催しました。



集落営農リーダー等育成塾  
第1回（7/22）



集落営農経営力向上講座  
第2回（11/16）

## 【農業農村指導士の活動支援】

○ 岩手県農業農村指導士協会県中央ブロック（アグリサミットもりおか）の活動を支援しています。



紫波町・矢巾町における  
現地研修会（8/25）



沿岸地域との交流事業  
山田農業まつり参加  
（10/19）

## 【各市町の経営改善計画審査会の支援・農作業安全の啓発】

○「認定農業者」申請者の改善計画が、生産技術面や経営面で無理なく達成されるようにとの思いで助言をしています。



○管内での農作業事故発生ゼロをめざし、関係団体と共に機械の取扱実習や注意喚起を行っています。



オペレーター技能向上研修  
第1回（8/25）

